



俳諧
を
辞典
部



第

二方若上若下今集皆三才乃四之昔之面之姓之
方沈方人方秋方筆等乃熟へみへうを上右

大なるもの三つあり

著る

庵イハ
二ツあり一カ人ニと三のや
六つありとより六は
池イハ
二あり一カ人ニ

知之地乃

游山記

二品所^一 **命** ^{イ子}
一命以玉爲物始之忠乃命之有
之義命以玉爲物始之忠乃命之有

命以述懷之命

たふさふさ

稻イネ一斗一ぬいゑをひきまわさぬ種元おそ
いあひかりぬふなるを編葉のあらうか

如く乃状よ

經子中

ぬ縮乃字今面とめて有べ一 伊勢乃神

一品者也

坐禪の意

いせの
いせの
いせの
いせの

乃等松也

西二里

いづる所を
竹のまわりと
かたけ院はみ
岩
器
窓
窓

—

表のふし守製と 石 二石無る物石史矢石屏 礫石を云ふ
二つうぐりうぐり 石 名所乃るまゝ三つうぐりなり 岩

ほに 岩草 岩三つあり岩面より石うつる 岩れとか

で 二つあり岩三つあり 石竹 石七つあり二つあり 石南花

同 二つあり岩三つあり 岩屋 岩三つあり岩より石より面

石 二つあり岩三つあり 岩垣 岩三つあり 岩木 二つあり 岩清

水 二つあり岩三つあり 岩橋 水より石より 岩舟 水より

放 二つあり岩三つあり 放 二つあり岩三つあり

家 二つあり岩三つあり 家 二つあり岩三つあり

家 二つあり岩三つあり 家 二つあり岩三つあり

家 二つあり岩三つあり 家 二つあり岩三つあり

家 二つあり岩三つあり 家 二つあり岩三つあり

家 二つあり岩三つあり 家 二つあり岩三つあり

家 二つあり岩三つあり 家 二つあり岩三つあり

家 二つあり岩三つあり 家 二つあり岩三つあり

家 二つあり岩三つあり 家 二つあり岩三つあり

家 二つあり岩三つあり 家 二つあり岩三つあり

けひえぬのイキニ **生死令** 二白あいらるこをわろ
まひり二白まき **いんる** 二白あいらるこをわろ

うらうら **稲妻** 一秋之象也 稲妻は雲より面映りて降るを稲妻と云ふ 二白まき
二白まき **いんる** 二白あいらるこをわろ

八眼衆分帖 **いんる** 稲妻は雲より面映りて降るを稲妻と云ふ 二白まき
稲妻分帖 **いんる** 二白あいらるこをわろ

水窓之火をせむといふ火をともる **いんる** 稲妻は雲より面映りて降るを稲妻と云ふ 二白まき
火五乃うちと和村と和する人 **いんる** 二白あいらるこをわろ

雲の字付の **いんる** 稲妻は雲より面映りて降るを稲妻と云ふ 二白まき
婦人飾は弗ス **いんる** 二白あいらるこをわろ

三白 **いと極ふ** 一生の終り極む事多し 二白まき
あは **いと極ふ** 一生の終り極む事多し 二白まき

出資 **いと極ふ** 一生の終り極む事多し 二白まき
用持付ておる **いと極ふ** 一生の終り極む事多し 二白まき

泉 **いと極ふ** 一生の終り極む事多し 二白まき
二白あいらるこをわろ

市 **いと極ふ** 一生の終り極む事多し 二白まき
二白あいらるこをわろ

色赤 **いと極ふ** 一生の終り極む事多し 二白まき
二白あいらるこをわろ

いと極ふ **いと極ふ** 一生の終り極む事多し 二白まき
二白あいらるこをわろ

いと極ふ **いと極ふ** 一生の終り極む事多し 二白まき
二白あいらるこをわろ

いと極ふ **いと極ふ** 一生の終り極む事多し 二白まき
二白あいらるこをわろ

いと極ふ **いと極ふ** 一生の終り極む事多し 二白まき
二白あいらるこをわろ

入相 **いと極ふ** 一生の終り極む事多し 二白まき
二白あいらるこをわろ

一合新隊一撥いふにあり軍をせしむる人々を新隊軍
星をく今合新隊をくする人のを新隊軍の爲に成る人々を

水まきしれ 若根末 居所は 石まき 同 室月 二 望月

いふいふ いふいふいふいふ いふいふ 二大乃事 永 四あつて

魚 二 いふいふ 三 いふいふ 二 いふ

縁物師 代士 人 代 二 最角 一 華 一 一家二門一類

是 一 いふいふ 一 いふいふ 一 いふいふ 一

一 一 いふいふ 一 いふいふ 一 いふいふ 一

一族 一 いふいふ 一 いふいふ 一 いふいふ 一

一 一 いふいふ 一 いふいふ 一 いふいふ 一

飯 一 いふいふ 一 いふいふ 一 いふいふ 一

色 一 いふいふ 一 いふいふ 一 いふいふ 一

いふいふ 一 いふいふ 一 いふいふ 一 いふいふ 一

いふいふ 一 いふいふ 一 いふいふ 一 いふいふ 一

いふいふ 一 いふいふ 一 いふいふ 一 いふいふ 一

いふいふ 一 いふいふ 一 いふいふ 一 いふいふ 一

付て花切と知りてみればとあるうは付てらるゝかゝ付てらるゝも
うた二句ある多分花を切る事あり由人付てもお花を切るも花を切るも

露地 最所へ在敷花や付て 六尺 人便之をわ 六親 人便之
お花を切る人あり花を切る 六尺 かしら同之

六字花号 尺おあり 六親日 一ひては人便 櫓 二尺 二尺 二尺
跡隠れ花 六尺日 かしら同之 乃具 二尺 二尺 二尺

青 二ひては人便 論義 一わては二ひては人便 二
面とては人便 論義 論乃字は人便

は 二尺とては人便 二尺とては人便 二尺とては人便 二尺とては人便
二尺とては人便 二尺とては人便 二尺とては人便 二尺とては人便

雲 二尺とては人便 二尺とては人便 二尺とては人便 二尺とては人便
二尺とては人便 二尺とては人便 二尺とては人便 二尺とては人便

雨 二尺とては人便 二尺とては人便 二尺とては人便 二尺とては人便
二尺とては人便 二尺とては人便 二尺とては人便 二尺とては人便

花 二尺とては人便 二尺とては人便 二尺とては人便 二尺とては人便
二尺とては人便 二尺とては人便 二尺とては人便 二尺とては人便

花 二尺とては人便 二尺とては人便 二尺とては人便 二尺とては人便
二尺とては人便 二尺とては人便 二尺とては人便 二尺とては人便

花 二尺とては人便 二尺とては人便 二尺とては人便 二尺とては人便
二尺とては人便 二尺とては人便 二尺とては人便 二尺とては人便

花 二尺とては人便 二尺とては人便 二尺とては人便 二尺とては人便
二尺とては人便 二尺とては人便 二尺とては人便 二尺とては人便

花 二尺とては人便 二尺とては人便 二尺とては人便 二尺とては人便
二尺とては人便 二尺とては人便 二尺とては人便 二尺とては人便

花 二尺とては人便 二尺とては人便 二尺とては人便 二尺とては人便
二尺とては人便 二尺とては人便 二尺とては人便 二尺とては人便

花 二尺とては人便 二尺とては人便 二尺とては人便 二尺とては人便
二尺とては人便 二尺とては人便 二尺とては人便 二尺とては人便

花比ゆ

花比ゆ さきう人地

花乃都

西都花地之方作
志能花地中

華雜之西之

花やう

花の家は二方云
之柳地ニ方云

とあく

花之う人地ニ方

花乃安

花之雜也人地ニ方
花地之柳花地ニ方

花乃友

花乃友
人地ニ方

花と友

花と友
人地ニ方

人乃花

花ニ方
花ニ方

花衣

花乃被花の袖花衣
花衣ニ方

花の宿

花の宿
花衣ニ方

花乃

雲

花の雲
花衣ニ方

花と宿

花と宿
花衣ニ方

花畠

花衣ニ方
花衣ニ方

花れちとり

花衣ニ方
花衣ニ方

花乃帽

花衣ニ方
花衣ニ方

花地花地の字

花衣

花衣ニ方
花衣ニ方

花

花

花衣ニ方
花衣ニ方

花軍

花衣ニ方
花衣ニ方

花野

花衣ニ方
花衣ニ方

花

花衣ニ方
花衣ニ方

花園

花衣ニ方
花衣ニ方

花葉

花衣ニ方
花衣ニ方

花

花衣ニ方
花衣ニ方

花葉院

花衣ニ方
花衣ニ方

花車

花衣ニ方
花衣ニ方

花心

花

花衣ニ方
花衣ニ方

花比香

花衣ニ方
花衣ニ方

花乃香

花衣ニ方
花衣ニ方

花

花衣ニ方
花衣ニ方

花比

花衣ニ方
花衣ニ方

花乃吉

花衣ニ方
花衣ニ方

野

花衣ニ方
花衣ニ方

花乃狂言

花衣ニ方
花衣ニ方

是子

橋 一名木二材縁橋中階うへにあり
橋 西より橋切り通天橋が今二橋よはせむ
橋 二句

系 也
系 三句内
系 寺
系 寺

芭蕉 一葉者
芭蕉 以上二句
芭蕉 初鳥
芭蕉 初嵐
芭蕉 初風

初堀 秋
初堀 野ハ二句
初堀 蓮
初堀 蓮
初堀 蓮

端山 山乃
端山 山乃
端山 山乃
端山 山乃
端山 山乃

と と
と と
と と
と と
と と

飛 飛
飛 飛
飛 飛
飛 飛
飛 飛

初 初
初 初
初 初
初 初
初 初

謀 謀
謀 謀
謀 謀
謀 謀
謀 謀

人 人
人 人
人 人
人 人
人 人

場 場
場 場
場 場
場 場
場 場

初鳥 初鳥
初鳥 初鳥
初鳥 初鳥
初鳥 初鳥
初鳥 初鳥

初嵐 初嵐
初嵐 初嵐
初嵐 初嵐
初嵐 初嵐
初嵐 初嵐

初風 初風
初風 初風
初風 初風
初風 初風
初風 初風

石像いしぞうは
 一いっつに二葉ふたばを燈とも
 洞ほら二葉ふたばを五ご
 梵ぼん二に
 塔たか三葉さんば一いつつ
 面おもてをききこふ

有り **星** ニ七夕甲ノ星見リ今ニ **布袋** 一振友ノ入佛ニあり

法眼 尺余ニある **法論** 尺余ニある **法** 一あり

一 一あり **煨** 一あり **かゆ** 一あり **て** 一あり **て** 一あり

男 一あり **帽子** 一あり **り** 一あり **強** 一あり

法 一あり **神** 一あり **乃** 一あり **字** 一あり **保** 一あり **競** 一あり **中** 一あり

ひ 一あり **び** 一あり **拂** 一あり **子** 一あり **り** 一あり **穂** 一あり **は** 一あり **華** 一あり

骨 一あり **起** 一あり **陪** 一あり **堂** 一あり **細** 一あり

二 一あり **頰** 一あり **木** 一あり **金** 一あり **又** 一あり

皇 一あり **行** 一あり **旅** 一あり **及** 一あり **右** 一あり

一 一あり **重** 一あり **字** 一あり **色** 一あり **と** 一あり **色** 一あり

平 一あり **家** 一あり **搥** 一あり

部 一あり **役** 一あり **櫛** 一あり **安** 一あり **慶** 一あり **乃** 一あり **乃** 一あり

色 一あり **出** 一あり **乃** 一あり **乃** 一あり **乃** 一あり **乃** 一あり **乃** 一あり

一わさ うんまの二種 乃ちま まの城まうよ 識 二つ

日 衣のふれ 返 一返を答ふ 勝 一勝を

弁又天 て都之天 床 一敷分 玉床下 あふれ

虎 一寅二 床 一敷分 玉床下 あふれ

床 一敷分 玉床下 あふれ

床 一敷分 玉床下 あふれ

乃心床 一敷分 玉床下 あふれ

乃心床 一敷分 玉床下 あふれ

乃心床 一敷分 玉床下 あふれ

乃心床 一敷分 玉床下 あふれ

乃心床 一敷分 玉床下 あふれ

乃心床 一敷分 玉床下 あふれ

乃心床 一敷分 玉床下 あふれ

乃心床 一敷分 玉床下 あふれ

肥の重と後や トヤカ 名之や大楚 豊明乃節云

非信分内之字は三三をそれ 年暮 年暮 年暮

字 年暮 年暮 年暮

己せ五とせも 年暮 年暮 年暮

とせおのりも 年暮 年暮 年暮

泊系 年暮 年暮 年暮

あつゆ 年暮 年暮 年暮

乃字 年暮 年暮 年暮

同は字 年暮 年暮 年暮

徳は換 年暮 年暮 年暮

石 年暮 年暮 年暮

純は利根 年暮 年暮 年暮

あもこととねはなり

あもこととねはなり

あもこととねはなり

二百^ト同志^ト 人傳^トありき
同志^ト 同志^ト 同志^ト

もろあわのま

此はあはれ所なり

宿直^ト 一夜^トなり

外^ト 外^ト 外^ト

燧心^ト 一灯^トなり

と地^ト 蘭^ト 万^ト 是^ト 隣^ト 一^ト 居^ト 所^ト 之^ト ありき

とくさ 一^ト ありき 一^ト ありき

そく^ト 一^ト ありき

花^ト 花^ト 花^ト

乃^ト 乃^ト 乃^ト

更^ト 更^ト 更^ト

襟^ト 襟^ト 襟^ト

と隣^ト 二^ト ありき

と隣^ト 二^ト ありき

所^ト 所^ト 所^ト

と隣^ト 二^ト ありき

と隣^ト 二^ト ありき

と隣^ト 二^ト ありき

と隣^ト 二^ト ありき

と隣^ト 二^ト ありき

と隣^ト 二^ト ありき

と隣^ト 二^ト ありき

と隣^ト 二^ト ありき

ら

塵^ト 塵^ト 塵^ト

千^ト 千^ト 千^ト

千^ト 千^ト 千^ト

千^ト 千^ト 千^ト

千^ト 千^ト 千^ト

千^ト 千^ト 千^ト

種^ト 種^ト 種^ト

種^ト 種^ト 種^ト

種^ト 種^ト 種^ト

千^ト 千^ト 千^ト

千^ト 千^ト 千^ト

千^ト 千^ト 千^ト

千^ト 千^ト 千^ト

千^ト 千^ト 千^ト

千^ト 千^ト 千^ト

け字

四新賞秘之集 契入抄

白作らうて同と云 契入抄

児一

見文殊をよ

おちこもこけりし

新音

白作らうて同と云 新音

茶

茶

肉三葉

いさ茶新茶

茶乃をい

ふ

沙

長者

地蔵

ちざり

ちざり

ちひゆ木

ちざり

血

血

賃二千

千話

畜生

亭

地

地獄

孔

丁

亭

地

地

地

地

越

ちひ

ちひ

ちひ

ちひ

ちひ

ちひ

ちひ

三

地

中

長

長

長

長

長

り

り

り

り

り

り

り

り

利

利

利

利

利

利

利

利

倫

倫

倫

倫

倫

倫

倫

倫

利

利

利

利

利

利

利

利

母 ニハ新一人ハ 小野 三内ハ なら ハ新一人ハ

なら ハ新一人ハ なら ハ新一人ハ なら ハ新一人ハ

を ハ新一人ハ 音 ハ新一人ハ

を ハ新一人ハ 音 ハ新一人ハ

生 ハ新一人ハ 小衣 ハ新一人ハ 小衣 ハ新一人ハ

小田 ハ新一人ハ 小衣 ハ新一人ハ 小衣 ハ新一人ハ

ね ハ新一人ハ ね ハ新一人ハ ね ハ新一人ハ

親 ハ新一人ハ 親 ハ新一人ハ 親 ハ新一人ハ

死 ハ新一人ハ 死 ハ新一人ハ 死 ハ新一人ハ

痛 ハ新一人ハ 痛 ハ新一人ハ 痛 ハ新一人ハ

織 ハ新一人ハ 織 ハ新一人ハ 織 ハ新一人ハ

小野 ハ新一人ハ 小野 ハ新一人ハ 小野 ハ新一人ハ

塘 ハ新一人ハ 塘 ハ新一人ハ 塘 ハ新一人ハ

送 ハ新一人ハ 送 ハ新一人ハ 送 ハ新一人ハ

送 ハ新一人ハ 送 ハ新一人ハ 送 ハ新一人ハ

力^カ 二相^ニ 色^{シキ} 種^{シュ} 一^{イチ} 絲^シ の 勢^{セイ}
 上^{カミ} 回^{マエ} の 種^{シュ} 六^{ロク} 枚^{バイ} 分^{ブン} 也^ヤ

色種

尺者

蘇乃賢

此乃
子孫

あり
陸 龍
北々

陸

かきとらりやうに
とらんとてつとむる

1845

耳よりけりて面を妬み我乃くの口内を征戦ハ獲は
付てゝお寄目うのゆひの針うの大玉かは諸ニ夕うて

蘇子瞻

玄
書
衣

驅蚊蠅之衣

東氏綱

二 九

嘉興海

水
貼
去

二六五

新谷

名聖心
萬事

新乃洞

仙臺之院
の病と云ふ
症

長務と云

力
力

我陰又

名根而根
二為之也

ふくろくちなる
とくちなる

山陰求安

と云ふなりけり
事足らずとも

のみにて目

今分
おまじつ
その字

多
かて人神と云ふるを
たひの
半心
花々々

足字より始りて
 云々のハ類と云ふ
 楓 カキ
 面と始りて
 河 カハ
 膏乃雨 カウ
 之 カ

抄は二白あり
よ七のふた
通樋 カキト 水急な急流字
二白ありあり
ま月よ
ひある文字三つ
まといふふた

二月壬申乃更
是日祔
又十月廿七日
是日祔
同於林氏公所之

邪カレ祭カレ之カレ教カレ此カレ字カレ方カレ一カレ加カレ一カレ音カレ秋カレあり

うり 萱ふさかやのちん 楊邊 村里 くらと二白

木村西
人因如六万支
木里
之了了
之了了

多之故也。以カハ栢カハ回之。郭之栢。爲カハ栢木。妻も四乃内之所。カハうぢ
ハ栢知る。推て腹アぬ事。之を腹とく。あり。

一りゆふは秋夜とてんりく今一ふ所此秋は夜くあう
れ小井いふとも今一けうと物さういふあふれ小井あういふ

秋は田舎つても難之
但秋ほどとんやうな秋之

蚊火カヤリヒ

夏の夜を
蚊がうるし

防モシ

防がらぬやうに
防がらぬやうに

神示カガヒ 一冬之暇に軍神手紙神示を賜ふ
しとて神示を乞ふに及ぶハ以て之を分るは

[illegible]

乃常 煉乃常之乃常 煉乃常之乃常

川乃字付ておきんち
宝の寺 カザビ
病の傍定をぬれさるの母
ふめいぬをよみんちし

三白玄之山人
宅カシ黒シ整
風と風
是三白願カシ乃シ久シ家

かきふし
めいそく
おとし
カキイ
泉井
カキイ
名不のちを
尺直之始け
カキイ
奥

加々子

あくとくう折月
咄門由 良此門也 ちるを咄門中 良此門

[illegible][illegible][illegible]

二句玄

雨ふ 付つて 備たへ 卵たまご かん

志乃橋此字
髮髪を已いく
眉の雪待ても
風よ二現れ

云々云々松の切とて救はぬ竹煮れ
うとうと云のぬぐはるるうり
かんづー
かこー二番
かこー二番

方二 斤付白紙依方折二
方二 斤付白紙依方折二

[illegible][illegible]

三
三
三

此と雖いふも、
既に此の如く
中目

と力積を以て
加ふるべき曰ふ
米くさ
二
ハハハハハ

文字すく
 元田よりへつ
 二

五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

人権は主として人権の

人備う
才^{カキ}なき座^{カキ}かき
何^カ正^カ整^カ
うそ^カ一^カ兵^カ糧^カ
うそ^カ足^カ

抄

張あふ カサマ 張 カサ 甲 カサ 一甲貝一塩の甲の内に カサ 兼言

二台去 カサ 帳 カサ 後 カサ 鏡 カサ 二色 カサ 月 カサ 鏡 カサ 歌 カサ 兼言

一色 カサ 約米 カサ 二色 カサ 鏡 カサ 二色 カサ 月 カサ 鏡 カサ 歌 カサ 兼言

二色 カサ 約米 カサ 二色 カサ 鏡 カサ 二色 カサ 月 カサ 鏡 カサ 歌 カサ 兼言

二色 カサ 約米 カサ 二色 カサ 鏡 カサ 二色 カサ 月 カサ 鏡 カサ 歌 カサ 兼言

二色 カサ 約米 カサ 二色 カサ 鏡 カサ 二色 カサ 月 カサ 鏡 カサ 歌 カサ 兼言

二色 カサ 約米 カサ 二色 カサ 鏡 カサ 二色 カサ 月 カサ 鏡 カサ 歌 カサ 兼言

二色 カサ 約米 カサ 二色 カサ 鏡 カサ 二色 カサ 月 カサ 鏡 カサ 歌 カサ 兼言

二色 カサ 約米 カサ 二色 カサ 鏡 カサ 二色 カサ 月 カサ 鏡 カサ 歌 カサ 兼言

二色 カサ 約米 カサ 二色 カサ 鏡 カサ 二色 カサ 月 カサ 鏡 カサ 歌 カサ 兼言

二色 カサ 約米 カサ 二色 カサ 鏡 カサ 二色 カサ 月 カサ 鏡 カサ 歌 カサ 兼言

二色 カサ 約米 カサ 二色 カサ 鏡 カサ 二色 カサ 月 カサ 鏡 カサ 歌 カサ 兼言

二色 カサ 約米 カサ 二色 カサ 鏡 カサ 二色 カサ 月 カサ 鏡 カサ 歌 カサ 兼言

二色 カサ 約米 カサ 二色 カサ 鏡 カサ 二色 カサ 月 カサ 鏡 カサ 歌 カサ 兼言

て勅抄を
あふりし守 **わう** うめ 一書はあつてしうりカレ二二カレ一 文に

電 電 一書はあつてしうりカレ二二カレ一 文に

わ わ 一書はあつてしうりカレ二二カレ一 文に

書 書 一書はあつてしうりカレ二二カレ一 文に

か か 一書はあつてしうりカレ二二カレ一 文に

母 母 一書はあつてしうりカレ二二カレ一 文に

三 三 一書はあつてしうりカレ二二カレ一 文に

か か 一書はあつてしうりカレ二二カレ一 文に

代 代 一書はあつてしうりカレ二二カレ一 文に

世 世 一書はあつてしうりカレ二二カレ一 文に

世 世 一書はあつてしうりカレ二二カレ一 文に

世 世 一書はあつてしうりカレ二二カレ一 文に

世 世 一書はあつてしうりカレ二二カレ一 文に

世 世 一書はあつてしうりカレ二二カレ一 文に

こわく

所 給ふ

二つふひ

聖

二つふひ

太報

おぼえ

二つふひ

和

大黒

二つふひ

あふ

大を

二つふひ

炬

高

かろ

二つふひ

擔木

二つふひ

道心

堂

寺

二つふひ

乃

二つふひ

乃

二つふひ

寺

二つふひ

乃

二つふひ

乃

二つふひ

寺

二つふひ

乃

二つふひ

乃

二つふひ

寺

二つふひ

乃

二つふひ

乃

二つふひ

寺

二つふひ

乃

二つふひ

乃

二つふひ

寺

二つふひ

乃

二つふひ

乃

二つふひ

寺

二つふひ

乃

二つふひ

乃

二つふひ

寺

二つふひ

乃

二つふひ

乃

二つふひ

寺

二つふひ

乃

二つふひ

乃

二つふひ

わらわ せし 理乃中 一人人 領家 買二

と只 せし 肉 せし せし 二

と云ふ 外面 二品所之ハ三品之 葉 三品之 三の 二品之

と云ふ 外面 二品所之ハ三品之 葉 三品之 三の 二品之

と云ふ 外面 二品所之ハ三品之 葉 三品之 三の 二品之

と云ふ 外面 二品所之ハ三品之 葉 三品之 三の 二品之

と云ふ 外面 二品所之ハ三品之 葉 三品之 三の 二品之

と云ふ 外面 二品所之ハ三品之 葉 三品之 三の 二品之

と云ふ 外面 二品所之ハ三品之 葉 三品之 三の 二品之

と云ふ 外面 二品所之ハ三品之 葉 三品之 三の 二品之

と云ふ 外面 二品所之ハ三品之 葉 三品之 三の 二品之

と云ふ 外面 二品所之ハ三品之 葉 三品之 三の 二品之

と云ふ 外面 二品所之ハ三品之 葉 三品之 三の 二品之

と云ふ 外面 二品所之ハ三品之 葉 三品之 三の 二品之

西三墓よりとてた
乃重塚も乃月
一系を
つひつひと
あけくろ
氣、
新
おれつ
内義
又字
依り

つひつひと
あけくろ
氣、
新
おれつ
内義
又字
依り

つひつひと
あけくろ
氣、
新
おれつ
内義
又字
依り

つひつひと
あけくろ
氣、
新
おれつ
内義
又字
依り

つひつひと
あけくろ
氣、
新
おれつ
内義
又字
依り

つひつひと
あけくろ
氣、
新
おれつ
内義
又字
依り

つひつひと
あけくろ
氣、
新
おれつ
内義
又字
依り

つひつひと
あけくろ
氣、
新
おれつ
内義
又字
依り

つひつひと
あけくろ
氣、
新
おれつ
内義
又字
依り

つひつひと
あけくろ
氣、
新
おれつ
内義
又字
依り

つひつひと
あけくろ
氣、
新
おれつ
内義
又字
依り

つひつひと
あけくろ
氣、
新
おれつ
内義
又字
依り

つひつひと
あけくろ
氣、
新
おれつ
内義
又字
依り

つひつひと
あけくろ
氣、
新
おれつ
内義
又字
依り

つひつひと
あけくろ
氣、
新
おれつ
内義
又字
依り

つひつひと
あけくろ
氣、
新
おれつ
内義
又字
依り

雨

ふりやふり

業

わざ

洞乃洞

ふりやふり

満

洞川

ほらまき

洞乃袖乃月

ふりやふり

生れねる

なま

泣

なみ

二

あく

ふりやふり

字

鳥

とり

款と

くわん

あけ

あけ

浪乃

なみ

あ

あ

名

な

な

な

余波

あま

ナキ

な

ナキ

な

ナキ

な

ナキ

な

ナキ

な

ナキ

な

津

津はに水も入ぬ
乃安付てふ若

難波津乃とふと

難波は乃奇
うきにおかぬ

津乃ふ

難波の事
よりみえ

難波

あんと

かう津本

おもえく
おもわく

なる津

一津紙は船とらひつらうら乃内り
全津乃字は白煙ありなり三白

なは月

是月乃
所よ毒

な乃夜

やうきつわう無お中

津乃津一取めらりは津

天津の事
津紙あり

はあごうは関あり

北の事
関よりあり波

春秋内所乃津本

波枕
あふくもする

あふく

あふく三白ありは津は二白あり
あふく三白ありは津は二白あり

あふく

あふく二白ありは津は二白あり
あふく二白ありは津は二白あり

あふく

あふく二白ありは津は二白あり
あふく二白ありは津は二白あり

あふく

あふく二白ありは津は二白あり
あふく二白ありは津は二白あり

あふく

あふく二白ありは津は二白あり
あふく二白ありは津は二白あり

あふく

あふく二白ありは津は二白あり
あふく二白ありは津は二白あり

あふく

あふく二白ありは津は二白あり
あふく二白ありは津は二白あり

慍^{ナニ}中^{ナニ}でと^{ナニ}
 ら^{ナニ}意^{ナニ}松^{ナニ}て^{ナニ}
 并^{ナニ}走^{ナニ}繩^{ナニ}を^{ナニ}出^{ナニ}

此字七百乃字三百此字三百此字三百

あくしわ草 植物 ながさ なな 南

寶

二、
一、
とまり
七
入の
ナツ
取
ナツ

出七句そ
 長は
 霖雨令二万
 長は
 永日
 永日

南蠻なまばん
倭わ

[illegible]

子
二
 南
三
 瑞
四
 堯

突乃如以
生乃更
既付之者

らーとらー
らんらんらん
らんらんらん

[illegible]

小蘭
孔乃字
孔世孔基孔泰るともよく云
いふて而なりやと云ふれ
老乃

服人倫
老翁
懷
師等
人
抗
宰人
懷

蠟燭ロウソク 一ヒト 枝エダ 一ヒト 本ポン 十ジュウ 枝エダ 乃ナニ

羅生門あかし 樂たのしみ 來きた

狼藉ウルフキ 一狼折一狼折
 疥癩ウツサ 疥癩疥癩
 羅漢ウカン 尺蠖尺蠖
 卵塔ラウタ

卒如終
端虎
虎也

虫 一松虫二倍虫秋の虫也とも今ひくく一面と云ふ秋の事
りぬ虫面と云虫れ字流るぬ乃虫三句ありとてくわ

出島歟乃ニ付テ喜ニ付テ荷ニ付テ村雨ハ村雨

るまゝ人の多の村あり戸内之
まゝと知るゝといふ村は竹藪
むらむら村の字に二つを群
むらむら高松の群

集衆ありてはやくわを痛むてゆきよ衆所せむく衆本
やま雲霧多煙竹を霜をとの村に二石ありなりむく

と云ふ字は
高き柳如きなり
村竹の村に
三つあり

二酒のむらうをむくは、求むるや今五斗をかりて云田代加之
むらう張ありりゆすねぬ之法乃切し飯敷およりけし

梅ハナ 一 花 每 冬 必 枝 一 葉 施 不 葉 三 物 下 梅 根
木 乃 肉 二 三 上 六 梅 乃 冬 一 冬 多 梅 根 相 也
埋 木ムキ 梅 根 又 打 鐵 也
梅 乃 冬 一 冬 多 梅 根 相 也

馬^ハの二匹を引給ふ馬蘭^ハの堀より原へ引去るのころ五月とてお午
お基は馬麻子よ七右衛門は三々所り約う三張の伯

馬のふ ひまやそむむすのふあひけり
せんぞのどてふけてとるふ

糸イガサ
二るまゐる
中へく
ふ士馬み人ミカタニザ
繪エ

Handwritten text in a cursive script, likely a signature or a name, written in dark ink on aged paper.

墨子
 腕
 香燒
 部

軒

三
の
お
ろ
う
と
く

軒
五
水

水
は
水
を
も
と
め
る
水

軒
五
水

水
は
水
を
も
と
め
る
水

軒
ち
ろ
ろ
り

軒
ち
ろ
ろ
り
軒
ち
ろ
ろ
り

軒
ち
ろ
ろ
り

軒
ち
ろ
ろ
り

軒
ち
ろ
ろ
り

軒
ち
ろ
ろ
り

軒
ち
ろ
ろ
り

軒
ち
ろ
ろ
り

軒
ち
ろ
ろ
り

軒
ち
ろ
ろ
り

軒
ち
ろ
ろ
り

軒
ち
ろ
ろ
り

軒
ち
ろ
ろ
り

軒
ち
ろ
ろ
り

軒
ち
ろ
ろ
り

軒
ち
ろ
ろ
り

軒
ち
ろ
ろ
り

軒
ち
ろ
ろ
り

軒
ち
ろ
ろ
り

軒
ち
ろ
ろ
り

軒
ち
ろ
ろ
り

軒
ち
ろ
ろ
り

軒
ち
ろ
ろ
り

軒
ち
ろ
ろ
り

軒
ち
ろ
ろ
り

軒
ち
ろ
ろ
り

軒
ち
ろ
ろ
り

軒
ち
ろ
ろ
り

軒
ち
ろ
ろ
り

軒
ち
ろ
ろ
り

軒
ち
ろ
ろ
り

軒
ち
ろ
ろ
り

軒
ち
ろ
ろ
り

軒
ち
ろ
ろ
り

三才 男山 非猥ふあゝすな偽め 怨灵 一たまりおれと地

熊 一熊乃ほとまてふと一熊乃珍取也 車 一往車水車一車 一取面お基たふ乃

香車小車飛車也老 草花 花の草花を所く草花 昆虫 昆虫の草花に好まてふ

四月の傍くは帝れおろり 雲 雲 天の雲三白まあり

雲升る 雲升る 天の雲を 雲升る 天の雲を

草列 草列 草列 草列 草列 草列 草列 草列 草列 草列

草花 草花 草花 草花 草花 草花 草花 草花 草花 草花

草花 草花 草花 草花 草花 草花 草花 草花 草花 草花

草花 草花 草花 草花 草花 草花 草花 草花 草花 草花

草花 草花 草花 草花 草花 草花 草花 草花 草花 草花

草花 草花 草花 草花 草花 草花 草花 草花 草花 草花

草花 草花 草花 草花 草花 草花 草花 草花 草花 草花

草花 草花 草花 草花 草花 草花 草花 草花 草花 草花

草花 草花 草花 草花 草花 草花 草花 草花 草花 草花

串 蛇 北 生 類

三

新刊

恒
恒
恒

卷之五

雲又金

王四叔

卷一

食四朽

未

之之極物

一甲

朽木

一名所二朽葉

樂人

生之祖

四

卷一

觀ミツメ 鐘カウ

大願

五

此四三

功德二尺

公

永云知

手龔
之

鯨

句

三平
三三

一六
二六

怪
二
三

二市之
て省
力
所

ろく

一
五
二

雲

帝之
臣

青

子芥

多行西

二二二二二

今之狀

暮

三白を乞ふの字あり二白を乞ふ者五穀
の意考むるは分り二白を乞ふ

闇る
おかし箱の

内人のうゝをまねて、
 二つありありかきうゝ

殊手

此生初時の字を楚の二面
 と楚の松の葉をくちをくち
 楚の二面
 楚の二面

卷八

下知宣下三石 施 雲 灌佛

冬と玉交りの木梁くわいり朽葉

史記八十八

あは
に
四吸木口食二をさへ垂
の口を木口の只ハ之をさへ

釘目釘
糸糸

此
北
生
於
口
之
水
亦
二
之
解
其
木
恒
植
地
力
之
也

車

王四柱^{きう}乃^{なり}是日^{このひ}系一^{ひと}多^{おほく}矣^{なり}

牛

金之
一甲此
所不
朽業
人

飛 燕

三々々々 材木 朽の字全
見童尸 眞 女の糸
男身 傷

生於

三
尺
公
ク
ガ
ハ
云
人
端
云
三
を
原
云
三
向

功德

大教の堂一戸名三戸之

卷之七

二白毫 陸二 瘡二 有二 子二 芥二

卷

雲々

新官付て 汲の字 多て三



歎 ヤビ

正統御院多衣二式

やとに ヤコヒヤ

跡生 山

宿 ニやとりニ一やくニ十八宿辰宿のれ多く二所見

為

字

立既七右玄宿やとり

第 ヤ

抑

王五柳二反秋冬一

立根若玄家ニ三右玄

抑 ヤナギダル

柳の浦楊柳親者柳下惠柳管柳文上

柳 ヤナギ

山 ビロ

山

山

山

仙 ヤビ

人 山

山 山

受て茶
順如茶
人
偏
々々々々
一
くぞく
意之依
白旗之

一、五所二、四乃
三、六乃
四、大乃
五、小乃
六、大乃
七、小乃
八、大乃
九、小乃

一而うハ白う
 糸外タビハ
 糸外タビハ
 糸外タビハ

口面を庵戸
くめ
り
る

栗一鉢 孔ク雀チカ 付付

具足ツクゾク 一佛の三々足

熊野

卷之六

官付て
汲の字
多て云
中々云

歎冬 ふゆの字付不若 やまに 七句迄 跡生 山所

宿 二よりニやクニ三ノ宿辰宿の終るニハ
省と一也クハやクニ面と月と考と名出ルヲモ
秀

子
 立既七言玄宣やう
 立根者玄家より玄
 第一
 抑
 王立柳一玄家
 抑箱揚抑観多抑

浦多の歌よ今
西揚校付白紙

柳やうりゅう

柳多浦楊柳親者柳下惠柳管柳文上
題此掛拍子柳のみ名所あり

何れも高と称して
ちよと題して
山姫
少経は強は
山姫
山姫

仙せん人じん
山さん々々

三才
五福

山以之野乃矣

乃端今嶽尾寺ても橋本山下

西之きりぬ
 東乃

己丑子
戶朱

秋分

二、内定七、五、三、二、一、
三、五、三、二、一、

也
又字
抄金錄

安く死なむと欲す
 疾代やけふ皆去り

也

趙也七死ハ任任二二玄玄

也

やふて二瘦一子久止三台

正字之別者
ハナク人あり

山松 松乃門 戸所より入地より松乃門は 松乃門 松乃門は松乃門は 松乃門

松乃門 松乃門は松乃門は 松乃門 松乃門は松乃門は 松乃門 松乃門は松乃門は 松乃門

松乃門 松乃門は松乃門は 松乃門 松乃門は松乃門は 松乃門 松乃門は松乃門は 松乃門

松乃門 松乃門は松乃門は 松乃門 松乃門は松乃門は 松乃門 松乃門は松乃門は 松乃門

松乃門 松乃門は松乃門は 松乃門 松乃門は松乃門は 松乃門 松乃門は松乃門は 松乃門

松乃門 松乃門は松乃門は 松乃門 松乃門は松乃門は 松乃門 松乃門は松乃門は 松乃門

松乃門 松乃門は松乃門は 松乃門 松乃門は松乃門は 松乃門 松乃門は松乃門は 松乃門

人傳之尺素之我子とあるは休三休足一やよ二やよ四歌

やと云知 三つりくを云々 山橋 難之 救 又或

山窓
夕我よりて居所又
二を去るなり

松と雲

松乃色 ひく支用片ろ 松

の緑 鼎之まゝるゝあひ 松の花 松之まゝるゝあひ

松高 松邊松浦松よ
三右衛門松等 松山 東の松賣此より放
松又吾を人物と 松嶋

[illegible]

松乃松子去松竹
松膠

此桂柏松乃葉燒也之楚斯松木也

松房一力 松乃矣一力 離一力 旁震只 待多 三

[illegible]

百
正
乃
之
々

本此字又二白是
本と云と取次を

韓

みち
きりぎりすを^{ミチ}松^カ番^カれとぞ乃^ナりとぞ

又^二前^三後^二と^一魔^二物^三中^二子^一

二^二也^三家^二三^一 変^二四^三 律^二一^一 然^二三^一 羅^二一^一 乃^二公^三 中^二子^一

二^二也^三家^二三^一 中^二子^一 二^二也^三家^二三^一 中^二子^一 二^二也^三家^二三^一 中^二子^一

二^二也^三家^二三^一 中^二子^一 二^二也^三家^二三^一 中^二子^一 二^二也^三家^二三^一 中^二子^一

二^二也^三家^二三^一 中^二子^一 二^二也^三家^二三^一 中^二子^一 二^二也^三家^二三^一 中^二子^一

二^二也^三家^二三^一 中^二子^一 二^二也^三家^二三^一 中^二子^一 二^二也^三家^二三^一 中^二子^一

二^二也^三家^二三^一 中^二子^一 二^二也^三家^二三^一 中^二子^一 二^二也^三家^二三^一 中^二子^一

二^二也^三家^二三^一 中^二子^一 二^二也^三家^二三^一 中^二子^一 二^二也^三家^二三^一 中^二子^一

乃字

山莊記

六張之匠なくしてはたし

子
子
子

魚子

冬之末、
とある、秋之

無雙の如く

更乃字

留リウ
鹿カ笛フエ

烟子

振衆

訓
之所
用之

物

補陀樂

11/10/2010
 11/10/2010

三日月の来りて字来りて
 字二白玄指の秋一 摘け候 九月は来り
 一 地を主とす 来りて 九月は来り
 二 白雨は上りて 来りて 九月は来り
 之今一都司 二 来りて 九月は来り
 言 二 来りて 九月は来り
 内へかひてとてとて 二 来りて 九月は来り
 一の秋 二 来りて 九月は来り
 外へとてとてとて 二 来りて 九月は来り
 雲と候 二 来りて 九月は来り
 少解 二 来りて 九月は来り
 冬より候 二 来りて 九月は来り
 也 二 来りて 九月は来り
 二 来りて 九月は来り

秋の暑同面ニもろろーのい
秋の暑同面ニもろろーのい

秋の暑同面ニもろろーのい
秋の暑同面ニもろろーのい

秋の暑同面ニもろろーのい
秋の暑同面ニもろろーのい

秋の暑同面ニもろろーのい
秋の暑同面ニもろろーのい

秋の暑同面ニもろろーのい
秋の暑同面ニもろろーのい

秋の暑同面ニもろろーのい
秋の暑同面ニもろろーのい

秋の暑同面ニもろろーのい
秋の暑同面ニもろろーのい

秋の暑同面ニもろろーのい
秋の暑同面ニもろろーのい

秋の暑同面ニもろろーのい
秋の暑同面ニもろろーのい

秋の暑同面ニもろろーのい
秋の暑同面ニもろろーのい

秋の暑同面ニもろろーのい
秋の暑同面ニもろろーのい

秋の暑同面ニもろろーのい
秋の暑同面ニもろろーのい

秋の暑同面ニもろろーのい
秋の暑同面ニもろろーのい

秋の暑同面ニもろろーのい
秋の暑同面ニもろろーのい

赤豆 おま三百三 穴 二番目二 穀 一わの二面 價 二代わ

きり うりそめ 荒 五 あ あ

油 一 當 も 白 三 節 三

あ 一 天 二 あ 二

糖 二 あ 二 甘 二

色 七 穀 二 あ 二

月 二 あ 二

足 二 足 二

あ 二 足 二

化 二 足 二

五月 二 足 二

い 二 足 二

大 二 足 二

言 二 足 二

足 二 足 二

主人の意を以て キカニ 小糸 カサネ 加藤の家月 キカニ 二人の心 カサネ 各々 カサネ 下は酒見 カサネ 下は酒見 カサネ 下は酒見 カサネ

ふれお
紙地
夕ア ニ夕アは日せきとて
夕日暮 吹くそくれろ

の暮暮林の
暮六二の夫
夕を心 心名
夕支 一及くはれ字三のちち字

乃月へは月をきききき
夕立水 そを付てはいつら
夕立 つまびうりき

夕月 夕月字乃をき
夕月同 秋の月名

夕月 夕月字乃をき
夕月同 月日はお

夕月 夕月字乃をき
夕月同 月日はお

夕月 夕月字乃をき
夕月同 月日はお

夕月 夕月字乃をき
夕月同 月日はお

夕月 夕月字乃をき
夕月同 月日はお

夕月 夕月字乃をき
夕月同 月日はお

夕月 夕月字乃をき
夕月同 月日はお

夕月 夕月字乃をき
夕月同 月日はお

夕月 夕月字乃をき
夕月同 月日はお

七月廿七日
田之初や他もいふあり
出雲
遠く

三々ミミ
三々ミミ
三々ミミ
三々ミミ

一乃所^ニ至^ル也
 都^ニ日^ニ
 水^ニ建^ル以^テ牧^ス
 水^ニみ^ルく

[illegible]

とて本を改く 今とてありやうに依て新し不可や
白鳥のそとを歩ゆ乃て夜を過る雲霞を以て立漂に添ふ

所^レ之^レ 河^レ 陵^墓 未^レ 煉^二 湖^二 又^二 三^二

三顧川 常川幸 一、從輩行 昭々一 三木川 昭々一 三羽幸

壬ニ 夫乃字四耳三 一皮二為玄字九 眉三同六 一

是日又^{三ツ}星
 西之星^{ミヅ}り
 本^{ミヅ}智^{ミヅ}又
 不^{ミヅ}星^{ミヅ}

美 ミ 葉に多 ハ 水 ミヅ 乃 ノ 字 ジ 三 ミ

雨 乃多雨而久之亦多雨之明氣の考ふ多之同

常乃素より公卿と通ずる者ありて之目録のあは

鹿嶋市
生家
鹿嶋市

此の所あるは室との通を怱々我々の麻四の内なり

鹿の角

鹿毛の筆鹿枝下鹿葉實の鹿角と云ふ方
鹿之角生れは鹿角にてあるも鹿之角は鹿

秋 下りえ

秋下りえ 秋下りえ 秋下りえ

下葉

下葉 下葉 下葉

下

下 下 下

下葉

下葉 下葉 下葉

下

下 下 下

下葉

下葉 下葉 下葉

下 下 下

下葉

下葉 下葉 下葉

下

下 下 下

下葉

下葉 下葉 下葉

下 下 下

下葉

下葉 下葉 下葉

鹿の角

鹿の角 鹿の角 鹿の角

下葉

下葉 下葉 下葉

鹿の角

鹿の角 鹿の角 鹿の角

下葉

下葉 下葉 下葉

鹿の角

鹿の角 鹿の角 鹿の角

下葉

下葉 下葉 下葉

鹿の角

鹿の角 鹿の角 鹿の角

下葉

下葉 下葉 下葉

鹿の角

鹿の角 鹿の角 鹿の角

下葉

下葉 下葉 下葉

鹿の角

鹿の角 鹿の角 鹿の角

下葉

下葉 下葉 下葉

鹿の角

鹿の角 鹿の角 鹿の角

下葉

下葉 下葉 下葉

三葉の戸葉は庵に掛軸
 三葉の戸葉は庵に掛軸
 三葉の戸葉は庵に掛軸

校勘上
 志より
 乃と爲とよニヤをえうゆよりうしふあ
 又く彼をえはらん後終うて付てふ者
 由懐と
 尺

一斗はきとてうめふたふ
 斗二枚を以て用ふる
 斗紙とく
 尺敷とく
 常
 斗紙

後
朝乃索
あきり事なれ索事なれ
あきり同索は海面を走
白く
雲々四
く上
九

李自く承る人方走考
推秋之推
柴焼之
一々五只八二
分あり

櫓乃きりえ
尺取の
抄之新之
あぢと
新之入地は二とや
寺の上を抄西ふ三

白多之志^三
二梅如二白内^一

[illegible]

宿望以飛所尺者人宿望同宿曜昨人傳方

五月
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十

塵 朔日 之 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

[illegible]

石鳥シデノ
山登ト
精進シカ
一休ト

可佑夕斜

せ ^{ニ多ク} 志 ^二 ね ^三 志 ^四 げ ^五 三つありてふ

志 ^一 志 ^二 志 ^三 志 ^四 志 ^五 可付但依り折る

志 ^一 志 ^二 志 ^三 志 ^四 志 ^五 一服ありて

志 ^一 志 ^二 志 ^三 志 ^四 志 ^五 一服ありて

志 ^一 志 ^二 志 ^三 志 ^四 志 ^五 一服ありて

志 ^一 志 ^二 志 ^三 志 ^四 志 ^五 一服ありて

志 ^一 志 ^二 志 ^三 志 ^四 志 ^五 一服ありて

志 ^一 志 ^二 志 ^三 志 ^四 志 ^五 一服ありて

志 ^一 志 ^二 志 ^三 志 ^四 志 ^五 一服ありて

志 ^一 志 ^二 志 ^三 志 ^四 志 ^五 一服ありて

志 ^一 志 ^二 志 ^三 志 ^四 志 ^五 一服ありて

志 ^一 志 ^二 志 ^三 志 ^四 志 ^五 一服ありて

志 ^一 志 ^二 志 ^三 志 ^四 志 ^五 一服ありて

志 ^一 志 ^二 志 ^三 志 ^四 志 ^五 一服ありて

志 ^一 志 ^二 志 ^三 志 ^四 志 ^五 一服ありて

志 ^一 志 ^二 志 ^三 志 ^四 志 ^五 一服ありて

志 ^一 志 ^二 志 ^三 志 ^四 志 ^五 一服ありて

志 ^一 志 ^二 志 ^三 志 ^四 志 ^五 一服ありて

志 ^一 志 ^二 志 ^三 志 ^四 志 ^五 一服ありて

志 ^一 志 ^二 志 ^三 志 ^四 志 ^五 一服ありて

志 ^一 志 ^二 志 ^三 志 ^四 志 ^五 一服ありて

志 ^一 志 ^二 志 ^三 志 ^四 志 ^五 一服ありて

志 ^一 志 ^二 志 ^三 志 ^四 志 ^五 一服ありて

志 ^一 志 ^二 志 ^三 志 ^四 志 ^五 一服ありて

志 ^一 志 ^二 志 ^三 志 ^四 志 ^五 一服ありて

志 ^一 志 ^二 志 ^三 志 ^四 志 ^五 一服ありて

五

絵めく草木

ねねおそれ

右衛門尉

ねね

生主

焼火

か

煮込酒

井底面

接乃木

交秋

繪

冬

衣紋

はき

あび

あび

あび

あび

あび

あび

因

ねね

株多

ねね

碎

ねね

ねね

ねね

ねね

氷室

氷室

氷室

氷室

氷室

氷室

氷室

氷室

氷室

ねね

ねね

ねね

ねね

ねね

ねね

ねね

ねね

ねね

ねね

ねね

ねね

ねね

ねね

ねね

ねね

ねね

ねね

ねね

ねね

ねね

ねね

ねね

ねね

ねね

ねね

ねね

ねね

ねね

ねね

ねね

ねね

ねね

ねね

ねね

ねね

ねね

ねね

ねね

ねね

ねね

ねね

ねね

ねね

ねね

ねね

ねね

ねね

ねね

ねね

ねね

ねね

ねね

ねね

ねね

ねね

ねね

ねね

ねね

ねね

ねね

ねね

ねね

ねね

ねね

ねね

ねね

ねね

ねね

ねね

ねね

ねね

ねね

ねね

ねね

ねね

ねね

ねね

ねね

ねね

ねね



物と モノ

もの

三行下のち 三行下のち

お茶 お茶

一

紅茶 紅茶

四の内にお茶は白茶と云ふは...

一

茶 茶

茶の字は...

一

茶 茶

茶の字は...

一

茶 茶

茶の字は...

一

茶 茶

茶の字は...

一

茶 茶

茶の字は...

一

茶 茶

茶の字は...

一

茶 茶

茶の字は...

一

茶 茶

茶の字は...

一

茶 茶

茶の字は...

一

茶 茶

茶の字は...

一

茶 茶

茶の字は...

一

茶 茶

茶の字は...

○ 倭名遣大枕

一 中乃えと書事 中とゆふをいれをえ

越

こゆる

消

きえ

同

きえ

如

いえ

付

いえ

美

あやえ

燃

いえ

肥

こえ

余

いえ

○ けいの中い

え

一 中乃えと書事 中とゆふをいれをえ

あ

い

り

庵

か

不

教

う

同

同

一 端乃と書事

小乃字乃とも読め

と

舟

を

下

ま

を

山

を

り

寒

を

山

を

下

ま

を

山

を

り

寒

一物乃終は字づきも終のを成す

玉のを

夢を

貸しを

きのを

一とををづきも終のを成す

をぬきをうくる

とよする

ねれぬ

一物乃をづきも終のを成す

とををづきも終のを成す

同はと

と六川

と六川

とををづきも終のを成す

一とををづきも終のを成す

これらもわくわく
そいふ人なり

一とををづきも終のを成す

一とををづきも終のを成す

一奥乃に書事

大の字づきもわくのかゆ

はわきを大の字づきもわくのかゆ

はわきを大の字づきもわくのかゆ

はわきを大の字づきもわくのかゆ

はわきを大の字づきもわくのかゆ

はわきを大の字づきもわくのかゆ

一尾の字づきも奥乃に書事

をぬきをうくる

一物乃をづきも奥乃に書事

かりきり

かりきり

かりきり

一物乃をづきも奥乃に書事

かりきり

おりふ^ひねふ^ひれ^ひひふ^ひ刑^ひふ^ひ言^ひ
 洗ふ^ひ裏^ひゆふ^ひ迷^ひなふ^ひれ^ひわふ^ひ洗^ひ
 ちふ^ひ拂^ひなふ^ひ遠^ひなふ^ひ遠^ひちふ^ひ誓^ひ
 ちふ^ひ遠^ひなふ^ひ假^ひちふ^ひ伴^ひおふ^ひ荷^ひ
 いふ^ひ祝^ひとふ^ひ唱^ひふ^ひ流^ひさふ^ひ傳^ひ
 あふ^ひ相^ひあふ^ひ叶^ひふふ^ひ狂^ひふま^ひ教^ひ
 とふ^ひ救^ひひふ^ひ括^ひゆふ^ひ許^ひむふ^ひ向^ひ
 きふ^ひ落^ひふふ^ひ碎^ひゆふ^ひ味^ひはふ^ひ傳^ひ
 ちふ^ひ這^ひちふ^ひ随^ひふふ^ひうふ^ひ白^ひ

あふ 以 律 清 乃 以 諧 きふ 以 嫌 やふふ 以 婁
たふ 乃 中 乃 以 と 陰 中 も 乃 り

日まゝ毎
 うあふへ
 さくふへ業
 せわおとろくひんてやうな五喜ぬは嬉しめ入る
 けねえまじても中ねえや奥いよやかくはあまたさこ
 みあひへながあひどもちろき人島そ人がして徳勝かどハ
 増のくありともふへ

ひめま

ひめま

ひめま

ひめま

ひめ

ひま

ひめま

ひめま

ひめま

ひめま

ひめま

ひめま

ひめま

ひめま

ひめま

ひめま

ひめま

ひめま

ひめま

ひめま

疎

疎

疎

溝口亭とひめま筆まにふあひめま

清書とてふまにふあひめま

かゝるまにふあひめま

於紫乃志あひめま

能風れあひめま

うきそに私とてふあひめま

の道^{ミチ}入^ハる^ル道^{ミチ}さ^サぬ^ヌた^タふ^フ万^{マン}の^ノ新^{シン}
形^{カタ}も^モ迹^{アト}も^モな^ナる^ルも^モれ^レ也^ヤ

竊^{シヤク}竊^{シヤク}石^{シヤク}壽^{シヤク}庵^{シヤク}

書^{シヤク}

安永十年^辛正月

京寺町通五条上^上町

書林

田中庄兵衛



漢和式

一 第唱句之事

第^{キウ}唱^ウ句^クと^トい^イふ^フ事^{コト}は^ハ字^ジ乃^ノ固^コを^ヲ内^ナ乃^ノ重^{ジュウ}字^ジを除^ヲき^キて^テ脇^{ワキ}の^ノ白^{ハク}韻^{イン}字^ジを^ヲ定^サめ^メて^テな^ナる^ルを^ヲ

必^{カナラシ}有^{アル}一^{ヒト}鄰^{リン}を^ヲ見^ミる^ル

字^ジ乃^ノ鄰^{リン}の^ノ字^ジハ^ハ諄^{ジュン}諄^{ジュン}乃^ノ約^{ヤク}の^ノ重^{ジュウ}字^ジな^ナる^ルた^タの

字^ジハ^ハ麻^マ乃^ノ約^{ヤク}の^ノ重^{ジュウ}字^ジなり^リ二^ニハ^ハ乃^ノ重^{ジュウ}字^ジを除^ヲき^キて

何^{ナニ}れ^レ韻^{イン}を^ヲて^テ脇^{ワキ}の^ノ白^{ハク}韻^{イン}字^ジを^ヲ定^サめ^メて^テ但^{タリ}一^{ヒト}を^ヲ

白^{ハク}乃^ノ一^{ヒト}韻^{イン}字^ジと^トい^イふ^フ事^{コト}は^ハ何^{ナニ}れ^レも^モ俳^{ハイ}諧^{サイ}の^ノ字^ジと^トい^イふ^フ事^{コト}は^ハ

あゝて其かまひなり

二 二四不同之事

● ● ● ● 毎句二と四を不同はさふ

● ● ● ● 仄平平仄 二字め仄字なれど四字め平字にさふ

● 是ハ末字あても仄字あても兩韻なれども

多かりげなり

● ● ● ● 毎句成をもさふ

● ● ● ● 二字めと四字めと同ト様は

● ● ● ● 多かりげなり

三 四字一平之事

上乃句 ● ● ● ● 是ニ四不同なれども四字仄字にて

下乃句 ● ● ● ● 是又四字平なりて一字仄字なり

但し一語逸乃句又ハ古語なりとて用ハ得セ

る乃句乃ハ百韻より十所の鬼ともなり

四 避下三連事

上乃句 ● ● ● ● 是ニ四句なりども仄字三字以下

下乃句 ● ● ● ● 是又下平字三字以下なり

五 平仄起之事

二字めを起とすなり

上乃句 ○ 平記 ○ ○ ○ ○ ○ 是平起なり此對句ハ仄

ツイ ○ 仄記 ○ ○ ○ ○ ○ 起みと終るふひは上乃句

上乃句 ○ 仄記 ○ ○ ○ ○ ○ 付對句ハ仄起まざる也

ツイ ○ 平記 ○ ○ ○ ○ ○ 又此對句ハ平起ますべし

起角上乃句と下乃句を對句ハ起を遠くは下れ

句と上乃句並ぶハ同一起まざる也

○ 漢和一應法式之事

面ハ句乃内漢句和四句是面の内對二所

みづーみ漢乃まなりハ對句ても不苦之

漢和乃ハ面ハ句め和なり和漢乃ハ面ハ句め

漢和乃華句もかかれど

面ハ句乃内漢句乃句可禁 朱門乃 但一 奥季載之

第唱句ハ各別乃也

百句乃内漢十句和五十句之ハハハハハ漢也

も和るても二三句れまハハハハハハハハハハ

花雪平乃内漢二句和の方二句

月和漢多ハ三句ハ句はまてハハハハハハハハハハ

雪五ハ漢也ハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ

二句あふたの両方へ一句づゝとて其の果たり
て出るとは漢出がらよ一句のふり

五句云之句云乃物にまゝと韻字にぬまべとの字
はまたりマヤナキ花物にほゝまたりす又元龜ゲンコウゴジ痕の

韻乃第三

通トウ龍リウ番バン月ゲツ夜ヤ

番乃子え惠痕みてい聲ハシ訓へううのかと
あつと續きありいとしむとすむし時ハ歌乃韻めて
音ハ也え惠痕ハ韻よあつとむと改はひて不若

韻外字ハ三ノ意ナリ成ルモナリナリ
漢句ハ句ナリ五句ナリ但漢句ナリ
至テハ句ナリモナリナリ漢句ハ五句
成ルモナリ

要類乃漢をくむ付向も漢をくむ一七言ハ文句
なり七言ハ對よりくむ一其以下ハ五言ありても
くむ加へばハサ合はる常ハ俳諧同類也

疊字ハ
躍テウレ
字乃
一症ニ八句まで云
かす故

同一面を嫌ふ也上中下と玉所をもかた

對りてさうは

合掌對とて惡きなり是は兩のちと合あるやに

付さるるを嫌なりたとて天地有る寒暖長

短大小善惡めむなり

或人曰合掌對といふは物ぞ其作意と云

むをて曰たとて夏茅唱句は

蕉鰾朱茄汁

是より合掌對とて

増鯖青蓼饅

唱句は蓋の論語陽貨乃篇より惡き之を蕉

鰾とてさうは結みそがりて作まり俗は朱

鰾といひて切は乃赤きなり茄乃ををて

紫をををてさうは對乃句は鯖をををて

り蓼なりて饅わよぞの赤きをを

一あるはさはる魚は魚を字

とをさ食類と食類也乃接を合さる

るぶと對さるる又け唱句は合掌對

なりさる對なり

九連綿字之事

連綿字ハ冠ハ篇ヲ作ラ下ニ同ドキタリノ譬ナ

乾坤

宇宙

磨廬

城郭

田園

豚臚

氣形

麒麟

鳳凰

蛤蜊

鴛鴦

猿猴

支脉

肺脾

鬢髻

體體

肝膽

眼膜

態勢

齒齧

婀娜

蹀躞

慇懃

徘徊

生植

梧桐

芙蓉

枇杷

菖蒲

蒲萄

食服

杞櫨

兩襠

袈裟

醴酪

饁饈

爲財

琴瑟

舳舻

帟帟

兩舻

蓮條

右連綿字ハ連綿字ナリヤ別ナリノ類

太緊をよふもの

①十二物之幸

是ハ別モノ也ニツラせて連續するところ譬ハ

乾坤

星霜

雨露

山林

陰陽

春秋

氣形

龜鶴

犬鷄

龍虎

狐狸

燕鶯

交梓

客顏

頭頂

眉目

心肝

手足

態藝

住還

おそ

邪正

終横

得失

生植

松菊

蘭蕙

榛栗

桃李

梅竹

食服

酒茶

海羅

酒肉

錦繡

看核

急成

金銀

甲冑

弓矢

力杖

筆硯

この外何程も多し一室ふた畧と裁り

②三物之事

貧^上 癡^下

儒
教
道

過現來

身シ口ク意イ

天地人

智仁勇

今更に

土底返り

底^{ソコ}よりとつてふたを敷きてへ^{ウラ}へて下

人之道

秋イ
古

執学

備池

納內
涼

無心

カキ
宥經

秋首古

孰学

滿池

納涼

無心

有經

多うれ親のかつめとくれ句えん甲く底返りれ

字より對ふに對句訓を付するに惑

又唱句返してより、と應返して對と爲之

可い字は類ゆきとてふべしなりと云ふ事

⑬朱子之事

朱子と云ふ乃名所の名書物乃名年号在位

これと人なりて人の名をいふの必要

くま 射多し 平仄をわづかぬて字射は 物

つゝ字對くハ程可なり又ハ賢

山谷の石に東坡の二字を乾坤門の字あり

思主と村多の赤久と村の黒と赤の支那の字主

人山等形ノ字有クハ知ル乙上ノ字アリ

子然う顔^ツ門^ツハ源と例とい乾坤門の字にて對を
まとも子^ツハ氣形門顔^ツハま^ツ門^ツを以て二字對を原望と
をも朱門なる故對をも之時改は頼朝等との類も
是うてある一但唐人の名と日本人名と對を
へし或ハ各ハ道風^ツ曰字^ツハ乾坤門の字ハ法
對されども各ハ唐^ツハ道風^ツハ日本人かをいふ乃
顔^ツ勢^ツハ對^ツうとてうす各所年号等も同是
所乃あるハ上野ハ近江松崎と藤原されし字
對して上野ハ又勢^ツハ高雄^ツ三^ツ室^ツハ懐^ツが
字ハ勢^ツハされども朱門ハ對^ツはうとてハ

朱門狂号

右所中ハめだたてゝ實乃朱門とわめてある一
二ツ門中乃朱門ハ物の平九二ツハ年号を以

⑥文字周ハ極乃事

譬^ツハ香^ツ乃字^ツハうとてむるハ生植^ツと
香^ツ具^ツハ用^ツハ付^ツハ是^ツ成^ツハなり也芳^ツハ字^ツハ
うとてよむハ塵^ツ柳^ツハてやうと音^ツハ
月^ツとて花^ツハありて生植^ツハ成^ツハ枯^ツが

とくむるれん虚押やとなく也音子用ふ以ん生
植まなる茂多蕪乃字ハ類も同ふ同音
用むるうらひ乃字て乾坤やとかり用寂
幽乃字もあかり詩乃字詩を作ふやれん同
字かり詩文詩書乃字り用ひてハ篆文やも
文書章乃字も同意ハ桐字きりともみて
生植かりあゝとみてハ蕪或かり梧の字も
同ふ琴よりかりハ梧類乃字なハ哉と

乾坤と氣形と通用乃字

日月星虹霓雷

乾坤と蕪或通用乃字

軒扉門戸櫂瓦甍檠碑牀石

炭炭楯棚

乾坤と支躰と通用の字

趾牙氣夢角

乾坤と光彩通用ハ字

日月星電露煙煤

乾坤と態藝と通用乃字

夢中封居處虛空波泥堆載
代遠近上下內外前後表裏
乾坤之生植之通用

林苑森節

氣形之態藝之通用

雄魚樵牧

氣形之支幹之通用

羽翼鱗翰角毛

氣形之光彩之通用

日月星鳥墨心兔鼻螢螢同上

氣形之聚財之通用

貝蠟鷁

氣形之人倫之通用

雄漁鰥獨孤

人倫之態藝之通用

賢愚樵漁盜賊佗將衆老若

自佗雄勇侶

支幹之態藝之通用

霜と露 備と計 夜と露 露と利 心と夜 漫

硯と松蘇利頭とカシラ是羅牛と提テ酒とサケ嬉ウレシ杉とスギ計ハカリ

世類乃各習不可務計也

○春

芳草 贈永吉

青羽 乃見腹ふに
カウ 時と久方ぬ
風よこし竹葉

[illegible]

是もねむき云 不勝足
 ねむき云 護己鳥
 護己鳥

[illegible]

亦夜の後、緑の情へ
梅小字
わが小乃字はゆき

梅花曆

中に隠るゝく四時もある

春已抄

春一麦

春の早くも麦

餞春

春の宴ははるかに

鶯餞

○夏

清和

四月の夏を愛するも

迎梅雨

四月の雨

新緑

緑迎夏

夏を待つ

梅天

五月の天

花富貴

牡丹をよめる

十三紅

花をよめる

緑勝花

五月の花

山如滴

雨をよめる

舊書

古書

荷草

蓮

草

霖

雨

梅類

類

荷雨

雨

た緑

緑

暑

炎熱

驅暑

馬をよめる

早霖

雨

炎塵

炎

涼書

涼

暑

暑

炎埃

埃

暑埃塵

塵

炎

炎

風解

風

秋近

期

秋

秋

○秋

初涼

涼

金氣

秋

梧

翻

葉

推殘暑

暑

黃雀風

風

梧雨

雨

金雨 秋の雨 兼語 秋風のうらやま 桐涼 猪相乃すい

素景 秋の景 疎柳 秋風よりまわて 楓錦 りんごの

紅樹 同上 黄落雨 木乃それおちる 空煙 草木乃煙

雁雲 雁の雲 寒砧 うそひき 冷 秋あり

○冬

枯草 あ 凍蝶 さむい 凍鶴 はるこ 殘葉 まどろ

呵筆 いきやう 凍雲 ふゆ 弓月 をき

肩暈 かたはら 敲凍硯 きつえん

短景 あつ 歎炭 なげ 釣雪 つゆ 敲雪詩 きつし

探梨 たんり 驚厓 おどろ

臘 ろう 春信 はるしん 歲暮 さいぼ

守歲 しゅさい 大晦日の夜をいふ

○雜

雲龍衣 うんりゅうい 金石友 きんせいう

詩肺 しはい 時仙枕 ときせんしん

雲似蓋 うんじがい 竹樓 たけりう

紅旭 紅日あり 紅衣 酒乃紅衣 紅女 物を盛女を云紅衣の字ハ本籍ニ

山同登 山のあがりふりきり 山是回 占よりあがりからぬ和ハ

釣深 書をうとくうさ 黒甜夢 むすねの 虫室突 あつら

舞如雪 人のうへ年より雪 湖似鏡 水海の面照て

歌款乃 舟舟下り底 客 あがり 一葉舟 舟あり

歸票泊 あひの字 錦字意 御講葉 秘語義 秘語義

珊瑚怨 秋の扇に人 名利 字跡出所 他準 大尾

禪定 錫 秋の扇に人 〇右之類 他準

誹書目録

誹諧新式大成 覽求 二冊 誹諧と巻 竹亭 二冊

同和之妙論 千梅 三冊 同江戸板 二冊

同和之白尾 青史 四冊 同拾遺 丈石 一冊

同系切齒 春耕 四冊 同曉山集 方山 二冊

同焼大根 梅尺 一冊 同同同 風狀 一冊

皇清
誹書目錄

誹諧新式大成

醫永

二冊 誹諧卷

竹亭

二冊

同和加鈔論

千梅

三冊 同江戶板

二冊

同卷此白尾

青史

四冊 同拾遺

丈石
幾夕入

一冊

同系切齒

春耕

四冊 同曉山集

方山

二冊

同燒大根

梅尺
麟那

一冊 同同孟

風狀
萬家樹

一冊

同近道大成

飛良

二冊 同番匠童

和及

一冊

同寄垣大成

鷺永

二冊 同子令肩

同作

一冊

同花火大全

立圃

一冊

同子令肩

同作

一冊

同初學抄

德元

一冊

同子令肩

風狀

一冊

誦林良材

鷺永

三冊

誦諧筌

史石

一冊

皇都書肆

田中汲古齋



